

1975 (昭和50)	染織		
	木漆工		
1976 (昭和51)	染織	読谷花織図柄に関する研究	古裂地および文献等を通し、現在ではあまり使われていない図柄を含め読谷花織の古典的図柄をまとめた。
		読谷花織の経浮技法の試作研究	経浮の技法が消滅し、全く製造されなくなった原因は何であるかを究明するため、経浮の試作研究を行った。
		植物染料の染色試験	8種類の植物染料(テカチ、グールー、コーロー、フクギ、モモガワ、スオウ、ソウシジュ、モクマオウ)を用いて染色試験および染色堅牢度試験を行った。
		久米島紬の風合いに関する研究	久米島紬について、その力学的特性値と物理的特性値の測定を行った。
		琉球絣の基本単位に関する研究	琉球絣の圖案を構成している個々の絣について収集、分類し、「琉球絣の基本単位集」としてまとめることにした。
	木漆工	県産未利用材を用いた製品の開発 ー未利用材に対する塗装試験ー	未利用材に対する塗装試験を行った。
		摺り漆技法に基づくシミ剤の表面処理	ガジュマルのシミ材に対する効果的な透明漆塗装について試験研究を行った。(シミの隠蔽)
バガス素地の圧縮成形加工について(第1報)		バガス素地による器物の曲面(アール)と立ち上がりに関連性について解明する。本報は接着剤の添加割合に伴う物性について検討した。	
1977 (昭和52)	染織	地機と高機の製品特性に関する研究	地機および高機により同一条件下で製品をつくり、両者の特性を比較し、それぞれの特徴を把握し『経糸と緯糸に関する混色本』を発刊した。
		琉球絣圖案に関する研究	御絵図帳をはじめとした古裂地、現在織られている製品等を参考にし、生産者が活用しやすいような琉球絣の圖案を「琉球絣圖案集」として編集した。
		経糸と緯糸による混色見本に関する研究	植物染料と化学染料の色見本を作成し、特に経糸と緯糸の混色見本については見本集を作成し、業者が目安として活用できるようにした。
		工芸織物欠点に関する研究	絣を含めた全般的な工芸織物の欠点について研究を行い、かつ成果のとりまとめとして『工芸織物欠点解説集』を編集した。
		琉球藍の製造技術に関する研究	昭和50年以降、琉球藍の製造工程において、原因不明な異常現象が起り、しばしば琉球藍の製造を失敗する事態を招いている。この異常現象に対し、農業説に重点を置いて究明を図った。
		県内各工芸事業所におけるデザイン開発実態調査	県内各地に於いて生産活動に従事している各事業所が、どのように商品作りを進めているか、調査把握を行った。
	木漆工	バガス素地の圧縮成形加工について(第2報)	バガス原料を粉碎機で粉碎し、粒度組成、吸水性・収縮性、曲げ強さについて試験した。

1978 (昭和53)	染織	琉球藍製品の成分分析	昭和50年以降の異常現象により、琉球藍の製造を失敗しやすくなっただけでなく、琉球藍製品の品質も低下したとの報告が相次いでいる。これを受けて当所では琉球藍の成分分析を行い、色素含有量等の基礎データを得ることにした。
		経浮花織による帯地の試作研究	昭和51年の研究をもとに、経糸技法による帯を試作した。
		県産織物の風合い標準化に関する研究	標準化のモデルとして久米島紬を選定し、官能検査を実施した。
		沖縄の地機の調査研究	県内の各地に残存する地機の構造を調査し、構造をまとめた。
		読谷花織の基本単位に関する研究	読谷山花織で織られている花織の紋糸に着目し、技法上3種類に分類した。
	木漆工	堆錦餅の耐候性及び耐洗剤性に関する試験	現在企業で使用されている堆錦餅と、当初で作製した材料を用いて、耐候性試験および耐洗剤試験を行った。
バガス素地の圧縮成形加工について（第3報）		立ち上がりのある金型を用いて、バガス素地製品を試作した。	
県産未利用剤を用いた小木工品試作		県産材を用いた小木工品を多数試作した。	
1979 (昭和54)	染織	琉球藍の製造技法	昭和50年以降の異常事態について、当所では原因究明に向けて継続的に研究を行っているが、未だ解明していない。そこで、琉球藍の製造技法に関する基礎的資料として、藍葉の栽培から製造に至るまでの工程を詳細に記録し、印刷物として編集発行した。
		琉球紺のつけ下げ応用試作	琉球紺のつけ下げをデザイン開発および試作した。
		市販絹糸の品質表示適正試験	現在市販されている絹糸について、品質表示の有無と適性の是非について試験を行った。
	木漆工	琉球漆器下地に関する研究	カシュー系塗料下地と豚血下地を用い、試験手板を作成。各試験を行った。
		県産材の効率乾燥法 エゴノキ材の乾燥	エゴノキ材の乾燥歩留りの向上と乾燥時間の短縮を図るため人工乾燥試験を行った。
		エゴノキ材の流通及び使用実績調査	エゴノキは十分な蓄積量を有していると言われながら、ここ2,3年は計画入手が困難になっている。その原因究明と対策に資するため調査を行った。
染織	琉球藍製造技術に関する研究	琉球藍製造工程における異常発酵等の技術的問題点の解明と品質点検を行った。	
	花織技術に関する試作研究	柄と紺の組合せを行うことや糸質等の研究を行い、重さの軽減をはかると共に品質の向上を図る。	
	久米島紬の製織技法に関する研究	現行の「紺かけ式」技法は製織能率が低く織物欠点が生じやすい。その改善のために「同時巻き込み式」製織技法に転換を図る必要があり、そのため産地全体の段階的技術転換の指導方法を研究する。	
	ネクタイ地の製造技術に関する研究	ネクタイ地の素材について、経糸密度・糸の撚り方向・緯糸の糸質など条件を変えることによって縫製後の製品が着用時に及ぼす防しわ性・引張り特性・圧縮特性を把握する。	

1980~81 (昭和55・56)	木漆工	県産未利用剤の加工技術に関する研究(国庫補助事業)	県産未利用樹種の物性、乾燥、塗装および加工性等科学的特性を究明し、良質木地の発掘を行い漆器及び小木工品への開発利用を図る。
		エゴノキの乾燥に関する研究	エゴノキの伐採期間の拡大を図るため、該材の物性及び乾燥試験を行い、材料歩留りの向上と乾燥技術の確立を図る。
		琉球漆器の耐候性に関する研究	豚血下地、合成漆下地及び漆下地等各種下地の耐候性、物性及び上塗り適応性について試験を行うほか、布着せ及び紙着せ等その他下地塗装工法の相違による同様の試験を行った。
		堆錦加飾の合理化に関する研究	型切りと印刻を同時に行う金型及び装置を開発するほか、顔料刷り込みを行わない加飾法を開発する。
デザイン	デザイン開発及び指導方針の探索	工芸の振興方法、業界のデザイン開発、業界のデザイン開発課題、他府県におけるデザイン開発指導の現状を多方面から検討し、公設備としてのデザイン開発研究及び指導の在り方についての方針を定めることにした。	
	緋のベーシックデザインに関する研究(第1報)	緋文様について、視覚的要素・形態的要素を力学的および感覚的に分析検討した。	
	透過原稿による緋模様の構成研究	伝統的な緋パターンのうち560パターンを抽出、それぞれ同位、交互配列 1,120枚の透過原稿数種を重ね構成することにより模様を構成するシミュレーションシステムを考案した。	
	木工及び漆工技術による生活用品の開発(第1報)	小径木を中心とする県産材の活用、漆工における堆錦加飾技術の活用により、インテリアアクセサリとしての表情を持つ小家具の開発を行った。	
1982 (昭和57)	染織	藍染製品の変退色	琉球藍を用いた藍染の絹の緋織物が6か月の室内展示でかなり変退色したので、当該品の耐光試験を行い、等級判定するとともに、展示室内の条件を測定して因果関係について究明研究を行った。
		植物染料の染色試験	県産植物染料の染色について総まとめをする継続研究業務である。植物染料で絹の染色を行い、染色性や染色堅牢度などの試験を行って体系化する研究である。
		花倉織の試作研究	花倉織は花織技術と緋織技術の組み合わせで製造される。緋織の綜統がけには単式技法と複式技法がある。今回の試作研究においては単式技法を用いた。単式技法においての綜統がけや製織時における長所、短所を解明しながら試作した。
		紅型色留袖の試作研究	紅型の摩擦堅牢度の難点を解消する1つの方法としてすそ模様の色留袖の試作研究を行った。とび柄では染料の使用範囲が広がり、顔料の摩擦堅牢度の低さを補強できて有効と思われる。
		紅型忍摺技法による帯地の試作研究	現代紅型ではほとんどみることがなくなった技術、技法の1つに「重ね型」と「忍摺り」の組み合わせがある。今回は、帯地(太鼓柄)として、応用試作研究を行った。
		県産未利用剤の加工技術に関する研究(国庫補助事業)	県産未利用樹種の特性を究明し、良質木地の発掘を行い、漆器素地および小木工品への利用開発を図る。57年度は特に表面粗さ、漂白、暴露、乾燥試験を中心に行った。

	木漆工	エゴノキの乾燥に関する研究	漆器素地として使用するエゴノキの伐採は、通常は成長が鈍化する冬期に行っているが、該期間のみでは需要に対応できないので、該材の物性および乾燥試験を行い材料歩留まりの向上と乾燥技術の確立を図り、伐採期間の拡大を図る。	
		琉球漆器の耐久性に関する研究	各種下地の耐候性、物性および上塗り適応性についての試験を行うほか、下地工法の相違による塗面強度等、塗面欠点発生原因の究明とその対策を検討する。	
	デザイン	クラフト製品の開発	陶、漆、木、染、織およびガラス等県産工芸材の複合利用による新製品開発のため、材料調達、加工技術、生産方法および販売法など各方面の基礎調査を行い、あわせてパイロットデザインの開発を行う。	
		織物における効果的配色計画に関する研究	緋単位の効果的構成、配色についてカラーシミュレーターを活用し研究を行う。	
1983 (昭和58)	染織	琉球緋のベーシックデザインに関する研究	琉球緋の持つ複雑な形態を可能な限り単純な造形要素に分類、客観化し緋構成作図手法をシステムテイクに行うための基本構造を明らかにする。	
		植物染料の染色	県産植物染料の染色性、表色性及び染色堅牢度等について総合的にまとめることにより、業界に資料として提供を行い、染色技術の向上および県産織物の品質向上を図る。	
		びんがたの染色堅牢度に関する研究	紅型で使用されている天然顔料4種（本藍、石黄、銀朱、洋紅）の堅牢度特性を試験した。	
		藍型技法に関する研究	藍型技法による基本パターンの分類を行い、それに基づいた藍型のモデル・パネルを作成した。	
		二重織による小物の試作研究	昼夜織のテーブルセンター、帯地等の施策を行い、多様化に対応する製品の開発を行った。	
		花倉織の技法に関する研究	単式開口装置と複式開口装置のそれぞれの製造時における長所、短所を解明しながら比較検討を行った。	
	木漆工	県産材の漂白に関する研究	市販されてる木材用漂白剤を使い、県産材19種の漂白処理前と処理後の表面色を測定し数値的に変化の度合いが分かるようにした。	
		県産材の透明漆塗装試験	県産未利用剤に漆を塗装することによって付加価値を高めて有効利用するほか、漆器素地材の発掘を行う。	
		県産材の表面あらさ試験	県産未利用材の表面あらさを測定することによって①塗膜の密着②木理③表面光沢などの特性を把握し、漆器製品及び木製品などの製品化における材料適性を検討する。	
		洋塗装における堆錦の密着性試験	ウレタン、ポリエステル塗面上への堆錦加飾の可能性を検討する。	
		エゴノキ材の乾燥特性	エゴノキ材の乾燥歩留りの向上と乾燥技術の確立を図るため、物性試験および乾燥試験を行った。	
		木工及び漆工技術による生活用品の開発	堆錦技法を、インテリアアクセサリとしての特性を持つ洋塗装小物家具への応用を図り、従来には見られない表情を持つ「堆錦家具」の開発を行った。	
			カスリパターンの構成に関する研究(2)	カスリパターンをコンピュータ・グラフィックスにより作り出すことを目的に、基本構成を考察した。
			琉球藍の染色性に関する基礎的研究	琉球藍の染色技術に関する基礎的研究を行った。

1984 (昭和59)	染織	間仕切絨布の試作研究	5つ、4つのミンサーの絨柄を用いた間仕切絨布を試作する。
		びんがたの染色堅牢度に関する研究	紅型に使用されている主な顔料4種と墨、胡粉を用いて、現在紅型で彩色に使われている13種の色を作り、染色堅牢度試験を行った。
		室内装飾布の試作研究(No.1)	立体感のある室内装飾布を試作した。
		室内装飾布の試作研究(No.2)	麻生地を生かした二次加工製品のれん兼スペースバインダーの試作を行った。
		複合組織によるインテリア製品の試作研究	複合組織によるインテリア製品の試作研究として(1)春夏向けののれん、(2)織物とびんがたの複合技術を試みる素地の試作を行った。
		紅型のれん試作研究	デザイナーを起用し、のれんのためのデザイン開発および試作を行った。
		壁掛、のれん試作研究	インテリア用品の試作研究で壁掛とのれんを試作した。
	木漆工	県産材の表面うねり（経年変化）	県産未利用材20種の表面うねりとその経時変化を見た。
		県産材の肉眼的構造	県産材19種の外観を肉眼で観察し、それぞれの外観的特性（おもに年輪、心、辺材、木理）を把握した。
		沖縄県産材の色	県産材20種について、室内放置における材色の変化を測定した。
リュウキュウマツの一般分析及び抽出成分分析		リュウキュウマツで、一般木材分析試験と逐次抽出試験を行った。また一部抽出物について構造決定をした。	
1985 (昭和60)	染織	琉球紅型の染色欠点防止と修正	琉球びんがたの染色工程において生じる様々な欠点の状態やその原因および修正方法等に関してまとめた。
		植物染料の染色条件に関する研究 ーテカチの染色性についてー	テカチの染色性について、その抽出条件による染色性、表色および染色堅牢度等の試験を行い、それらの特性を把握することとする。
		ユーナ染の実態調査研究	ユーナ染の実態調査と染色堅牢度の試験を行った。
		ワークウェアの試作開発	伝統染織技法（絨・紋織・紅型）によるワークウェアの試作開発を行った。
	木漆工	単板（突板）及び化粧張り合板の試作研究	イタジイやリュウキュウマツ、クスノキについて化粧張り合板を試作し検討を行った。
リュウキュウマツの材料管理		リュウキュウマツの青変菌対策の検討を行った。	
魅力的な漆器図案の開発		現在の漆器の図案の調査と、魅力的な図案を作成するための提案	
多目的トレーデザイン		座臥や卓の生活、もてなしや節を楽しむ和性・洋性を兼ね備えた一器10用のトレーを漆器加工技術を用いて開発した。	
		ページ欠損？	

1986 (昭和61)	染織	琉球絣ベーシックデザインシステムに関する研究	将来導入が予測されるコンピューターによる「織物設計システム」のための絣パターン作成法について、原図の作図合理化の検討を進めた。
		沖縄織物の用途開発としての商品企画	東京都内の呉服問屋、百貨店等における織物の売れ行き動向さらに和の融合店、和の素材の展開店について市場調査を行い、沖縄織物の呉服の中でのポジションについてについて分析し、商品開発の提案を行った。
		紅型の色彩特性	古い紅型着物および古裂地について、色彩特性試験を行った。
	木漆工	リュウキュウマツの有効利用と材料管理	ブルーステイン(青いシミ)、およびヘアークラック(表面割れ)を生じさせずにリュウキュウマツの材料管理ができないものか検討した。
		掻き合わせ塗りによる皿の試作	「本物の漆を使用し、高価格でなく、生活提案でき、気楽に使える」を念頭にして、掻き合わせ塗りによる漆器を試作した
1987 (昭和62)		ページ欠損?	
	染織	夏久米島新規織物開発	久米島紬事業協同組合より依頼を受け、久米島紬の新製品を試作開発した。
	木漆工	県産木材による小木工品の開発1 (小径木と端材)	県産樹種のチップ材を活用した小木工品の試作開発を行った。
		漆器図案の開発	琉球漆器が今後発展するために、もっと楽しく、感覚的で、創意に満ちた、ユニークな文様を開発し琉球漆器の発展を図る。
	リュウキュウマツ材による家具の試作研究	リュウキュウマツ材を活用して、家具(テーブルセット)の試作研究を行った。	
		植物染料の染色試験	県内に産する亜熱帯植物による植物染料の開発を目的とし、植物の採集、染料の抽出、染色等の試験研究を行い、植物染料40種(染色見本50サンプル)について「沖縄の植物染料」としてまとめた。
		緑葉による緑色染色試験	県内に産する植物を用いた染料抽出実験、抽出回数等による染色実験を実施し、染料植物によっては緑色染色が可能なが分かった。
		ホテイアオイの染色試験	ホテイアオイが水槽等で繁殖する場合、毛根が濃紫色を呈することに着目し、それぞれを染料として活用するための染料抽出および染色試験を行い、その可能性について検討した。

1988 (昭和63)	染織	紅型の服地開発研究	天然素材の優しさと高い機能性に、模様部分を簡素化させたデザイン構成とし、広幅素材を中心に服地開発を行ってみた。
		セシリン定着に関する研究	残存セシリン糸を利用するために、生糸をセシリン定着加工、セシリン未加工(精錬加工)による染色加工後およびセシリン定着・染色同時加工の糸について、セシリンの残膠量と堅牢度等を比較検討する。
		夏久米島新規織物試作研究	前年度の試作研究指導を基に、商品化にむけて素材の選択と加工、染色、準備加工および設備等の部分的改良を加えながら、久米島産地らしい夏物でこれに伴う技術、技法の確立を行い、品質向上を図るために試作研究指導を行った。
	木漆工	県産木材による小木工品開発2 ー小径木と端材によるアクセサリー開発ー	亜熱帯樹独特の多様な木理と豊富な色彩を活かしたアクセサリーを試作開発した。
		木材への紅型加飾研究	木材への紅型加飾研究をするにあたり、まずは被染木材をリュウキュウマツに絞り試験することにした。
		木材の抽出成分研究 ー樹木の抗菌性物質の探索ー	県産樹木(ハマセンダン)の抗菌性成分について、予想される抗菌性物質を単離し構造解析を行い、さらに菌に対してのバイオアッセイにより抗菌性の有無を調べて抗菌性成分について検討した。
1989 (平成元)	染織	生糸繊維素材の複合加工開発	生糸を主体に柞蚕糸及び化学繊維素材による複合加工を行い、糸持性、製織性及び織物性能等を検討する。
		服地に関する開発研究指導	沖縄織の特性を活かした技術、素材及びデザインに基づき、服地開発研究を行った。
		高機能性びんがた染色の開発研究	顔料と大豆蛋白質による彩色における種々の条件および要因の把握を図り、科学吸着や固着力、その染色性について検討し、高機能性びんがた染色の開発を図る。
		植物染料の染色試験(第2報)	県内に植生する亜熱帯植物を用いた植物染料の開発を目的とし、染料抽出、染色試験及び堅牢度試験を行った。
	木漆工	リュウキュウマツの深物用挽物木地としての材料管理	リュウキュウマツの、荒挽き工程を入れた材料保管方法を検討した。
		植物染料による木材着色の研究	植物染料を木材の着色に利用することにより木材製品のイメージアップを図り、高級化、差別化することを目的とし、植物染料の抽出方法、着色方法、紫外線による色彩変化等を検討した。

		異素材融合化製品の試作研究	工芸素材の複合による壁面照明器具の試作開発を行った。
1990 (平成2)	染織	紅型染色における防染糊除去に関する研究	溜め水方式における作業方法の問題、しれによる残留のり分の問題、糊抜き剤の活用などについて、現状の把握と今後の対応に関する試験分析を行い検討した。
		高機に関する調査	織物の生産事業に従事する織手を対象に、高機に関するアンケート調査を行った。
		高機の改良に関する研究	調査結果を基に高機の現状、高機の部位構造の把握、問題点を抽出検討し高機の改良部位の検討さらに基本設計を行う。試作においては業界に委託した。
		植物染料の染色試験(3)	県内に植生する亜熱帯植物を用いた植物染料の開発を目的とし、染料抽出、染色試験及び堅牢度試験を行った。
	木漆工	小木工品の開発研究(2) ー電話機の試作ー	堆錦加飾の施された木製電話3種類を試作した。
		挽物用深物木地の材料管理 (イタジイの挽物木地としての管理)	イタジイの挽物用木地を想定した木地管理の試験を行った。
		植物染料による木材着色の研究(2)	代表的な5種の県産木材について、植物染料の染色、化学薬品処理(媒染)による発色を試み、さらに植物染料の浸透性、密着性を把握するため、染料の溶媒および化学薬品処理に用いるメチルアルコール、水の木材表面における浸透度を測定した。
1991 (平成3)	染織	紅型の剛柔性と染色堅ろう性に関する研究	市販紅型着尺について剛柔性を中心に、且つ染色堅牢性についても対比させながら比較した。
		植物染料(フクギ)の染色性向上に関する研究	植物染料(フクギ)の木綿糸や麻糸などのセルロース繊維への染着性・発色性の向上を図るための染色法についての試験をした。
		紺・紋織技術による絵羽織物に関する研究	以前当所が行った研究「琉球紺・花織の付け下げ試作研究」を基にして、紺・紋織技術を活用した絵羽織物の図案、素材、技法の検討を行い、絵羽織物製造の資料作成に向け研究・指導を行った。
		古紅型文様の基本単位に関する研究(1)	古紅型文様に関する型紙の文献からパターンを収集・分類し、単位図として整理することで体系的にまとめ、技術資料として収録した。
		高機の改良に関する研究	前年度改良した改良織機の寸法、構造の変化が、製織布にどのように影響し変化しているか、現在使用している旧・改良織機、既存高機との比較製織試験を行い検討した。
		タデ藍に関する研究	タデ藍草の栽培および泥藍染料抽出についての試験を行った。
	木漆工	挽物用深物木地の材料管理 (ガジュマルの挽物木地としての管理)	ガジュマルの木材収縮率、乾燥速度などを試験し、挽物木地としての材料管理を提案する。
染織	ビジネスウェアのためのテキスタイル開発指導研究	ビジネスに着用する服地の素材開発およびテキスタイル・コスチュームのデザインに関する開発研究と試作指導を行った。	
	ヨナグニサン糸の開発研究(予備試験)	与那原町商工会より技術指導の相談を受け、羽化後の繭について手つむぎ法による予備試験を行った。	

1992 (平成4)		古紅型文様の基本単位に関する研究(2)	前年度に引き続き、古紅型文様に関する型紙の文献からパターンを収集・分類し、単位図として整理することで体系的にまとめ、技術資料として収録した。
	木漆工	植物染料による木材着色の拭漆発色効果に関する研究	植物染料によって着色された木材(センダン)が、和塗装(拭き漆)によってどのような発色効果を示すか検討した。
		NCルーターによる沖縄県産材の加工技術研究	県産材(オキナワウラジロカシ、ハンノキ、クスノキ)を試験木材として、NCルーター切削の試験を行った。
		異種工芸品の複合化に関する研究	「暮らし」に視点を置き、現代生活のニーズにマッチしたテーブルウェアの開発を試みた。
1993 (平成5)	染織	久米島紬の新製品開発に関する研究	県内外に収蔵されている久米島紬の御用布、古裂地等の調査研究を行い、素材・色・柄配置などを把握した。また、糸づくりに関しては、現在は作られていない細番手の試作に向け真綿、手つむぎ産地調査も実施した。
		コンピュータ・ドビー手織機による製織試験	これまで手作業で行っていた意匠設計や配色計画などをコンピュータシステムを活用し、織物設計計画の検討および製織試験による効率化について検討を行った。
		ヨナグニサン糸の開発研究	ヨナグニサンの出殻繭からつむぎ糸を採取するための浸透および煮繭試験を実施した。
	木漆工	NCルーターによる沖縄県産材の加工技術研究(2)	沖縄県産材7種について、NCルーター切削との関わりを試験し、沖縄県産材のNCルーターを用いた製品化への基礎データとする。
		琉球漆器における朱色の標準化に関する研究	琉球漆器における朱色として、一般に好まれる朱色を標準化するためアンケート調査を行った。
		顕微鏡による木材組織の識別・同定	県産材について顕微鏡による観察を行った。
1994 (平成6)	染織	ヨナグニサン糸の開発研究(2)	前年度に開発したヨナグニサン糸を用いた製品開発の事例として、ネクタイ地の試作試験を実施した。
		久米島紬の新製品に関する研究(2)	試作糸を用いて染色試験・糊付け試験を実施し、その結果に基づき着尺地の試作試験を行った。
		サトウキビ葉による染色実験	サトウキビ葉による染料抽出法、素材の違いによる染色特性についての基礎データを把握した。
	木漆工	NCルーターによる沖縄県産材の加工研究(3) (プロトタイプ試作開発)	NDルーター活用による沖縄県産材の切削加工の可能性を検討するため、刃物と沖縄産材の切削状態についての試験を行った。
		漆の吹付塗装に関する研究	スプレーガンを用いた漆の吹付塗装を行った。
		色漆の発色における紫外線の影響について	東京と沖縄で乾燥させた試料で色漆の発色における紫外線の影響についての試験報告を行う。

1995 (平成7)	染織	ヨナグニサン糸の開発研究(3)	平成5年度に実施したヨナグニサン出殻繭の浸漬けおよび煮繭試験の結果に関連した追加試験として、酵素煮繭試験や茶褐色の色素漂白・煮繭試験およびつむぎ糸試験等を実施した。
		紅型画像データ・ベースシステムの開発研究	古典紅型文様をパターン別に収集し自由に取り出せる画像データ・ベースシステムの構築を行った。
	木漆工	芯持ち材の有効利用研究	芯持ち材の芯を貫通し取り除くことで芯割れを防止できる。県産材13種における芯去りの効果と樹種ごとの特性を把握するため、試験を実施した。
		堆錦餅の彫漆技法による製品開発の研究(1)	堆錦餅を張り合わせて層にすることで、短期間で新しい加飾材料ができないか検討した。
1996 (平成8)	染織	未利用植物繊維による製品開発に関する研究	未利用繊維であるデンファレの新たな製品開発を行うため、デンファレの茎状観察、採織試験、繊維引張り強度試験について検討した。
		半自動織機による製織試験研究	半自動織機、整経機の導入(平成5年度)を試み、生産性の向上、加工技術の高度化・効率化を検討するため製織試験(平成6年度～平成8年度)を実施した。
	木漆工	芯持ち材の有効利用研究(2)	生木を輪切りし、途中まで芯を抜き、粗挽き、中挽き、仕上げ挽きの工程を経て、挽物木地を加工することで、芯持ち材の可能性を検討した。
		沖縄の食文化と木製食器について(1)	県内の産地状況及び食器に関わる文化や歴史を調査し、製品化に関わる研究計画のコンセプトを作った。
		堆錦餅の彫漆技法による製品開発の研究(2)	堆錦餅を堆錦加飾技法で使用する加飾材料ではなく、餅自体を使用して新製品の開発を試みた。
	1997 (平成9)	染織	未利用植物繊維による製品開発に関する研究 ーデンファレ繊維の柔軟加工試験ー
未利用植物繊維による製品開発に関する研究 ーローゼルの採織試験ー			「ローゼルの実」を収穫した後、茎に含有する粘質繊維の採取方法について採織・糸積みの予備試験を実施した。
赤色染織試験			県内に産する染色原料により、赤色発色染料の発掘を目的として、赤土や植物染料を用いた染色試験を実施した。
木漆工		NCルーター活用によるペンケース試作	NCルーターを活用し、沖縄県産材10種によるペンケースを試作した。
		ベトナム産漆の精製技術について	ベトナム産漆を精製して上塗り漆として使えるか、中国産漆と比較検討した。
		沖縄の食文化と木製食器について(2) -調査	沖縄料理店8店舗を対象とし、「琉球料理と器に係る意識」「実用に際する木製食器の問題点」「使用されている食器のデータ」について、聞き取り調査および使用食器の測定記入を行った。
		沖縄の食文化と木製食器について(3) -素材カラーリング	イタジイのカラーリングに関する試験研究を行った。

1998 (平成10)	染織	染色製品の堅牢度試験に関する研究	本顔料と地入れの関係について、種類別、処理濃度別のデータを報告する。
		未利用植物繊維による製品開発に関する研究 ローゼル繊維の研究開発(2)	採織課程の検討、糸積みの試験、染色試験及びその開発した糸を用いてインテリア関連の試作試験を実施した。
	木漆工	堆錦餅による下地工程の簡素化に関する研究	堆錦餅を下地材として使用することによって、下地工程の簡素化と他の下地材に比べて強度はどうか比較検討を行った。
		コンピューター・グラフィクスによる漆器製品のデザインシミュレーション研究	二次元および三次元コンピューター・グラフィクスによる漆器製品のデザインシミュレーションおよび試作研究を行った。
		コッピングマシン活用研究	コッピングマシンを活用して椅子・テーブルおよび三線の試作を行った。
		沖縄の食文化と木製食器について(4)	イタジイを用いた木製食器5種類の試作を行った
海外研究交流報告 ～フィンランドの家具デザイン～	1998年11月7日～12日27日までの50日間、フィンランドにて工芸・デザインに係る教育機関や資料館、工場などを視察した。		
1999 (平成11)	染織	未利用植物繊維による製品開発に関する研究 -ストレリチャ繊維の開発研究-	南風原町で多く栽培されているストレリチャについて、葉柄を含有する葉繊維の採織試験や糸積み試験、葉や葉柄による染色試験を行った。さらに、その開発した糸を用いてインテリア関連の試作試験を行った。
		ファッション素材開発に関する研究 -イタリアのファッション素材関連調査-	平成11年11月8日から11月16日まで、イタリアにて、ファッション素材関連の試験研究機関、人材育成機関、協会、博物館などの視察・調査を実施した。
		ファッション素材開発に関する研究 -洋裁地素材開発に関する調査-	(1)消費者、(2)染織物業界、(3)服飾デザイナー・縫製業界、3者の県産染織物の洋装化に対する現状と意識調査を実施し、今後の洋装地素材開発の試作研究アイテムおよび方向性について検討する。
	木漆工	コッピングマシン活用研究	イタジイとオキナワウラジロガンによる椅子の製作加工を試みた
		漆による壁画面に関する研究	公共施設等の壁面装飾に、漆器の技術を活用したものを提案する。
		データベースによるデザイン支援の研究	汎用データベースソフトによるサンプルフォームを製作し、物理的情報を含めたデジタル情報管理を提案した。
		緋柄・紋柄によるテキスタイルデザイン研究	緋柄による服地デザインの提案を行い、そのデザインに関してのアンケート調査を実施した。

2000 (平成12)	染織	後染によるテキスタイル・デザインに関する研究	コンピュータ・カットシステムを使用し、男性用紅型シャツの試作研究を行った。
		ファッション素材開発に関する研究 -先染素材に関する研究	芭蕉、ケナフによる、先染素材開発の試作試験を実施した。
		ファッション素材開発に関する研究 -タイのファッション素材関連調査-	タイのチェンマイ、バンコクにて視察調査を行った。
		ケナフ、パイナップル繊維による織物製作	
		コンピュータ・カットシステムの活用研究	コンピュータ・カットシステムの効果的な活用方法の把握と提案を目的に、図案作成ソフトによる型紙試作を通して、基本的な操作マニュアルを構築する。
木漆工	コッピングマシン活用研究	カンカラ三線より高級で、通常の三線よりは低価格な「学童三線」を、コッピングマシンによって試作した。	
	漆による壁画面に関する研究(2)	漆器によるアートパネルの試作を行った。	
2001 (平成13)	染織	後染によるテキスタイル・デザインに関する研究2	当所が平成11年度に消費者に向けて実施したアンケート結果を踏まえ、消費者指向に対応した服地のデザインを設計した。さらにデザイン画を提案しアンケート調査を行った。
		ファッション素材に関する研究 -先染素材に関する研究-	沖縄の特徴ある繊維（芭蕉や苧麻）を主体とした春夏シーズンをテーマ設定し、素材試験や製品試作を行った。
		緋柄・紋柄によるテキスタイルデザイン研究	テキスタイルデザインを検討し、産地の特徴、生産体制等を考慮に入れた上での、沖縄織物（緋柄・紋柄）を活用した洋裁地デザイン開発を行う。
	木漆工	圧密木材の耐蟻性試験研究	試験材としてイジュとスギを用いて、圧密処理した場合の耐蟻性試験を行った。
		家具デザインデータベースの研究 ——木材用自然系塗料に関するデータ——	国内で入手可能な自然系塗料26種類を収集し、塗装見本作成を行った。
耐久性汎用漆器に関する研究		乾漆素地による学校給食用食器の試作研究を行った。	
2002 (平成14)	染織	ファッション素材開発に関する研究 -先染素材に関する研究-	秋冬シーズンをテーマに素材開発を行った。
		画像処理システムによる織物文様に関する研究	琉球絣の基本単位図集をベースに、ビットマップデータ(jpg)およびベクターデータ(Illustrator)を作成した。
		後染によるテキスタイル・デザインに関する研究2	前年度に作成したデザイン画やアンケート調査をもとに、かりゆしウェアを試作した。

	木漆工	圧密木材の耐蟻性に関する研究	圧密木材について、木材が圧縮されるとともに強度や比重が大きくなると考えられ、それとともに、耐蟻性も増すのではと考えられるので、その実際を試験してみることにした。
		芭蕉渋による木材塗料に関する研究	芭蕉(バナナ)について、塗料としての可能性を検証した。
2003 (平成15)	染織	ファッション素材開発に関する研究 ー先染素材に関する研究ー	沖縄の特徴ある繊維による素材開発を目的に製品を試作り、性能試験を実施した。
		コンピュータを活用した緋デザイン実用化研究	織物生産者に向けたデザイン支援ツールとしての活用方法を確立し実用化に向けた取り組みを行う。
		紅型文様によるデザイン表現研究	紅型製品の多彩な商品構成と低価格化を図るため、コンピュータソフトとコンプレッサーエアガンを用いた表現研究を行った。
	木漆工	耐候性住宅外装及び耐蟻性住宅部材の開発と評価	リュウキュウマツ、イタジイ、イジュ、ハンノキ、デイゴを用いた圧縮木材の開発と評価
		耐久性汎用漆器の開発研究(2) ー型抜き成型技術による給食食器の試作ー	平成13年度から取り組んでいる『耐久性汎用漆器に関する研究』を踏まえ、各工程のさらなる改良を検討し、高耐久性漆器の生産システムを確立するための研究を行った。
		漆の高温強制硬化による製品開発に関する研究	現在、主に金属の焼き付け塗装として利用されている高温強制硬化技術を応用し、上塗りに適応できる技術として再検討し、任意に設定した温度・時間で漆を硬化させることによる乾燥工程のシステム化を図る。
2004 (平成16)	染織	伝統染織を展開した製品開発研究(生活用品開発)	消費者が求める商品を提案するためのアイテムに適したデザイン・素材選定および製品試作、物性試験を実施した。
		伝統染織を展開した製品開発研究(ウェア開発)	かりゆしウェアの試作開発を行った。
		伝統染織を展開した製品開発研究(デザイン開発)	古典紅型文様基本単位のデジタルデータベース化(ベクトルデータ)を行った。
		圧密木材の研究	圧密木材の加工方法と三線などへの圧密木材活用による製品開発を行った。

	木漆工	漆の高温強制硬化による製品開発に関する研究(2)	「漆の高温強制硬化による製品開発(1)」で得られたデータを基に、送風定温乾燥機を使用し、素地固めから上塗りまでの全乾燥工程を高温強制硬化させた製品試作を行った。
		海外派遣研修報告	平成16年2月4日～14日の期間、スイス・ドイツにて海外派遣研修を行った。
2005 (平成17)	染織	亜熱帯植物繊維の紡績方法とその製品開発 (平成17年度沖縄産官学共同研究推進事業)	ハイビスカス・オクラなどの繊維から新しい繊維素材を開発し、沖縄独自のブランド繊維として商品化を目標とした。
		伝統染織を展開した製品開発研究(ウェア開発2)	織物産地または企業・工房とタイアップし新たな産地ウェアの開発を行い、将来を見据え産地におけるウェア生産体制の確立を図る
		伝統染織を展開した製品開発研究(デザイン開発3)	古典紅型文様をベクトルデータ化した。動物257パターン、植物の花類210パターン合計467パターンについてデータ化を終了した。
	木漆工	圧密木材の研究	リュウキュウマツ、イジュ、ガジュマル、イスノキを用いた、乾燥圧密木材の製作を試みた。
		高品質・高耐久かつ安価な琉球漆器の開発 (JST平成17年度シーズ育成試験)	漆含浸シートを用いた圧縮成型漆器素地を開発し、工程数の大幅削減を図るとともに、近年開発された高耐久性漆を琉球漆器に適用することで、高品質・高耐久かつ安価な琉球漆器を開発することを目的とし研究を行った。
	海外派遣研修報告(イタリア職人企業のデザイン開発調査)	平成18年1月8日～30日の期間、イタリア・スペインにて視察調査を行った。	
2006 (平成18)	染織	伝統染織を展開した製品開発研究 ー生活用品開発ー	照明器具、袋物用素材開発とスタイルデザインの試作開発を行った。
	木漆工	乾燥圧密技術の開発による沖縄産材の高品質化に関する研究(乾燥圧密技術)	リュウキュウマツを用いて、乾燥圧密木材の製造方法による実用化を図ることを検討した。
		乾燥圧密材のトータル評価(小木工への展開)	「乾燥圧密技術の開発による沖縄産材の高品質化に関する研究」により生産された材について、実用可能な用材であるか検証した。

		観光土産品市場における工芸品の新商品開発	観光土産品としての商品開発を想定し、工芸品の新商品を試作した。(ビジネス用品、酒器)
		工芸品の需要開拓に関する調査(陶器)	本調査は「セラミックス原料配合システムに関する研究(沖縄県工業技術センター)」に関連した2期間連携の調査であり、当所ではデザインと需要開拓の視点で実施にあたった。
2007 (平成19)	染織	天然染料の染色性に関する研究	天然染料の染色堅牢度試験を実施した。
		紅型技術による化学繊維の染色に関する研究	紅型技術による化学繊維への染色方法の確立を目的に研究を進める(化学繊維はポリエステル100%を使用)
	木漆工	琉球松樹皮による木材用着色材の研究	地場産材(リュウキュウマツ)による石油由来成分を含まない木材用着色料の開発を目標として、生産方法と着色方法に関する試験を実施した。
		漆器素材活用による製品開発に関する研究	シリコン型によって型抜きした刻苧素地に漆塗りを施しアクセサリーを制作した。
2008 (平成20)	染織	防染糊に関する研究1	乾熱処理に対応した防染糊活用方法の確立を目的に試験を実施した。
	木漆工	デイゴのコッピングマシンによる切削性に関する研究	軽量家具や小木工品の開発を念頭に、生産性の高い加工機(コッピングマシン)による加工性について検証した。
		県産資材活用による製品開発研究	デイゴを、漆器木地以外の方法で有効活用できるかどうか探った。
2009 (平成21)	染織	防染糊に関する研究2	分散染料発色下限でも水洗いで容易に落とせる防染糊の試験を行った。
		紅型における蓄光材料の応用	蓄光顔料を用いた紅型製品開発を目的とし、基礎試験を行った。
	木漆工	デイゴ材の表面圧延処理に関する研究	デイゴ材の圧延処理について加工方法の検証と物性の評価を行った。
		堆錦加飾の簡素化に関する研究	圧縮成形による漆器素地制作方法を応用し、熟練加工職人ではない若手職人でもできるように加飾技術の簡素化を図る。
2010 (平成22)	染織	沖縄の植物染料の抗菌性について	県内で採取した18種類の植物について、JIS法による抗菌性試験を行った。
		織物調査(1)	産地で現在行われている技術・技法に関する調査と代表的な織物の組成調査を行った。今年度は植物繊維の産地を訪問した。(工芸二次加工技術高度化事業の一環)
	木漆工	堆錦加飾の簡素化に関する研究2	機械設備が必要なく容易に加飾できる堆錦餅の試験研究を実施した。
		琉球黒檀の人工乾燥に関する研究	琉球黒檀の乾燥過程での欠陥発生を抑えつつ、かつ十分な乾燥を行うための乾燥スケジュールについて検討を行った。
2011 (平成23)	染織	織物調査(2)	産地で現在行われている技術・技法に関する調査と代表的な織物の組成調査を行った。今年度は絹・木綿の産地を訪問した。
		琉球紅型の色に関する研究	古い紅型から色データの抽出を行い、表色系に基づいた色数値化を目的に調査研究を行った。

	木漆工		
2012 (平成24)	染織	琉球紅型の色に関する研究	
		染織材料の開発に関する研究	
	木漆工	県産材による家具性能評価に関する研究	
		県産材による食洗器対応型食器の開発研究	
2013 (平成25)	染織	紅型堅ろう染色に関する研究	
		風合いの試織(1)	様々な経糸と緯糸を組合せ、本数の検討など、手織物の手触りを検証した。
		県産未利用植物の染色に関する研究	
	木漆工	県産木製品の性能設計に関する試験研究	
		琉球漆器の伝統文様に関する研究	
		CNCによる漆塗面切削に関する試験研究	CNC彫刻機を用いて、加飾文様を漆塗面に彫刻した。
		県産材による食洗機対応食器開発事業	漆器木地に適した県産木材の研究と…給食用漆器を試作した
		堆錦餅の生産工程に関する試験研究	
2014 (平成26)	染織	琉球藍に関する研究	
		風合いの試織(2)	様々な経糸と緯糸を組合せ、本数の検討など、手織物の手触りを検証した。
	木漆工	琉球漆器の伝統文様に関する研究	
		堆錦餅の生産工程に関する試験研究	
		CNCによる漆塗面切削に関する研究	
2015 (平成27)	染織	藍の生葉染めに関する研究	
		風合いの試織(3)	様々な経糸と緯糸を組合せ、本数の検討など、手織物の手触りを検証した。
		琉球藍に関する研究2	
	木漆工	堆錦餅の生産工程に関する研究	
		琉球漆器の伝統文様に関する研究	
2016 (平成28)	染織	天然染料の掛け合わせ試験に関する研究	県内では、天然染料が使用された製品が多く作られている。本研究では、活用できる「新たな色」の発見を目指す。
	木漆工	伝統文様のデータベースに関する研究	織物、紅型、漆器等には、多くの伝統文様が使われている。本研究では、これを有効活用する為の情報構築を行った。
		瓦地粉の生産工程の検証(1)	沖縄の伝統的な下地材である瓦地粉の生産工程を検証した。
		3D造形装置による漆器素地に関する研究2 (キーワード：漆芸、デザイン、データベース、デジタルデータ)	「螺鈿」「堆錦」「沈金」は琉球漆器の代表的技法である。本研究では、この3つの「効率化」に関する加工試験を行った。
2017 (平成29)	染織	麻繊維におけるソウシジュの染色研究	
	木漆工	瓦地粉の生産工程の検証(2)	沖縄の伝統的な下地材である瓦地粉の生産工程を検証した。
		CNC技術による木素地に関する研究	
		工芸資源のデータベースに関する研究	
2018 (平成30)	染織	ソウシジュの染色に関する研究	
	木漆工	瓦地粉の乾燥性の改善	瓦地粉の乾燥疎外原因の特定と改善方法を試みた。
		沖縄の樹木・植物資源データベースに関する研究	
		沖縄の工芸文様データベースに関する研究	
2019 (令和元)	染織	琉球藍に関する試験研究	琉球藍の藍建てを安定して行うためのマニュアル作成に向けて、試験研究を行った。
	木漆工	瓦地粉の原材料としての優位性評価	瓦地粉の素材特性について分析検証するため、真比重測定および顕微鏡による状態観察を行った。
		工芸資源データベースに関する研究	
		カードによる工芸価値教育に関する研究	

2020 (令和2)	染織	琉球藍に関する試験研究	
	木漆工	瓦地粉の生産技術定着に向けた実証試験	瓦地粉生産技術を漆器生産現場に最適化するため、①適切な1辺地を得ること、②中量生産工程(200kg/年)を検証した。
		工芸資源データベースに関する研究	
		カードによる工芸教育に関する研究	
2021 (令和3)	染織		
	木漆工	瓦地粉の技術標準化に関する研究	
2022 (令和4)			
2023 (令和5)			

[参考文献]

- ・沖縄県工芸振興センター 年報(昭和51年度～平成22年度)
 - ・センター所蔵研究ファイル等(23年度以降)
 - ・沖縄県公式サイト
- <https://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/kogeicenter/sikenkenkyu/kenkyuhoukoku.html>